

ぬいぐるみ感性学の未来

東京大学人文科学研究科美学芸術学研究室修士1年

青松茉矢

なぜ「ぬいぐるみ感性学」か？

- アジア、とりわけ日本で独特な発展を見せるぬいぐるみ文化を分析する
- 遊び、ビデオゲームの美学と連続させた哲学的地位を与える
- 新たな「伝統技術」に？！
- 人文科学と自然科学の接点

先行研究

- 心理学的アプローチ：移行対象としてのぬいぐるみ
 - ウィニコット 移行対象
 - →大人とぬいぐるみについての研究の不足
- 表象文化論的アプローチ
 - 菊地浩平
 - キャラクター論、→「人形」との区別の不足
- ぬいぐるみ哲学は未発達

ぬいぐるみ感性学の可能性

- 美学的アプローチ
 - 可愛い
 - 肌触り、やわらかさ
 - 芸術作品としてのぬいぐるみ
- 文化論的アプローチ
 - ぬいぐるみ帝国日本
 - 推し活文化
 - 「ぬいぐるみ病院」
- プロダクトとしてのぬいぐるみ
 - 美学的アプローチと科学との融合
 - 優れた品質
 - 「ぬいぐるみ批評」の可能性？！

美学的アプローチ

- かわいい
 - 視覚以外の「かわいい」
 - みじめさ、弱さ
 - 肌感触、弾力の“感性”学
- 芸術作品として（例1）
 - ぬいぐるみ作家
 - 縫う、包む(くるむ)
- 存在論（例2）
 - ぬいぐるみ定義論:人形とぬいぐるみ、オブジェとぬいぐるみ、マスコット
 - ぬいぐるみ現象学
 - e.g. 「抽象的」なぬいぐるみはあり得るか？/どこからがぬいぐるみか？/バーチャルでもなく生物でも道具でもないものはどのように存在するのか？/特定の人物や実在する物体のぬいぐるみとの現象学的区別 etc…

例1 めいぐるみ作家・芸術家@日本

- モチパン @mochipan1115 (X)
- とりもちうずら @uzura_3 (X)

△著作権の都合によりダウンロード版では作品画像を掲載しない

モチパン『カステラ』
(発表者撮影)→



例2 世界初のぬいぐるみ Steiff

- 1880 Steiff創業 世界初の「ぬいぐるみ」
- 1893 社名を「**フェルト**・トイ・カンパニー」(Margarete Steiff, Filzspielwarenfabrik Giengen/Brenz) に変更
- 1902 世界初のテディベア「55PB」
- 1931 ディズニーと連携

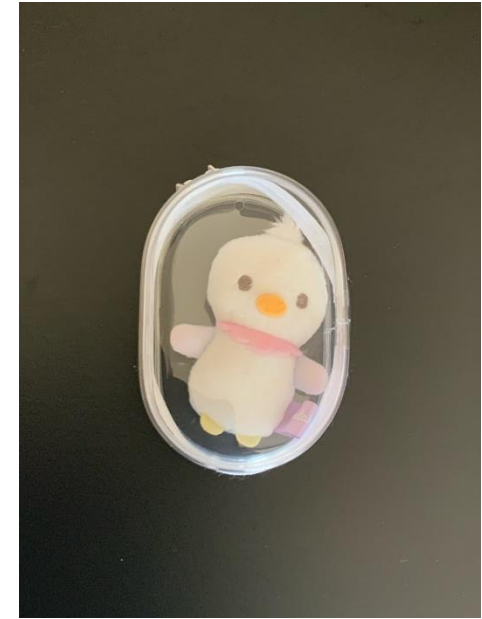


画像

[:https://www.steiff.co.jp/history/?srsltid=AfmBOorQfMHuJ_METiZaxPqaf1v0Tt4o5SiBDz7RFLceYUyMR8LKabzn](https://www.steiff.co.jp/history/?srsltid=AfmBOorQfMHuJ_METiZaxPqaf1v0Tt4o5SiBDz7RFLceYUyMR8LKabzn)

文化論的アプローチ

- ぬいぐるみの帝国日本
 - ぬいぐるみの権力の欧米との比較（例3）
 - 大人も楽しむ
 - UFOキャッチャー、ゆるキャラ、記念品
- 押し活
 - ぬいぐるみポーチ、ぬい撮り
 - 共同体
- ぬいぐるみケア（例4）
 - ぬいぐるみ病院
 - ぬいぐるみクリーニング



例3 世界(欧米)のぬいぐるみ

イギリス



スウェーデン



Bukowski

<https://toy.estona.shop/>
ドイツ

<https://bukowskibears.com/>



・インテリア・ギフト・おもちゃ

<https://www.steiff.com/de-de>

例4 むいぐるみケア

- 『むいぐるみ病院』 <https://www.nuigurumi-hospital.jp/>
 - 『むいぐるみのお医者さん』 <https://nuigurumi-oishasan.com/>
 - 『ネットで洗濯.com』 <https://net929.com/>
-
- SNSで広がるむいぐるみ共同体

プロダクトとしてのぬいぐるみ

- 至高のぬいぐるみを目指す
 - e.g. 感触と快感の関係を統計化or個人の肌と趣向に合わせる
 - →科学と美学の協力！
- 「日本製」のぬいぐるみ（例3とも比較）
 - △アジア諸国の工場を包摂する「ぬいぐるみのアジア」を論じる必要
 - 日本の技術（ぬいぐるみの修復、ケアも含）
 - 既存の伝統技術との組み合わせも可能

おわりに…

「ぬいぐるみは多くの人にとって身近な存在です。さらに基本的には大量生産品で、一点もののドールなどに比べると値段も安く、なかなか価値を見出されにくいのも事実です。しかし、それはいい換えれば、ぬいぐるみはわれわれの想像性による伸びしろが大きいということでもあります。まさにわれわれ人間の不合理で非論理的な想像力を引き出し、人間らしさを思う存分発揮させてくれるのが他ならぬぬいぐるみなのではないでしょうか。そうであれば大人の皆さんは、もうぬいぐるみを捨てるかどうか悩んでいる場合ではありません。われわれがより人間らしくあるためにも、もっと気軽にぬいぐるみについて語り、共有する場を作っていく必要があります。」

菊地浩平『NHK ところをよむ 人形は人間のなんなんだ？ 2025年1月～3月 [雑誌] (NHKテキスト)』NHK出版 日本放送協会著 <https://a.co/7133zi6>

参考文献

- 井原成男ほか『移行対象の臨床的展開：ぬいぐるみの発達心理学』岩崎学術出版社,2006
- 菊地浩平『人形は人間のなんなんだ？』NHK出版,2025
- 菊地浩平『人形メディア講義』河出書房新社,2018
- ドナルド・ウィニコット『情緒発達の精神分析理論: 自我の芽ばえと母なるもの』牛島定信訳,岩崎学術出版社,1977
- ドナルド・ウィニコット『遊ぶことと現実』橋本雅雄訳,岩崎学術出版社,1979

- 『ぬいぐるみのお医者さん』 <https://nuigurumi-oishasan.com/>
- 『ぬいぐるみ病院』 <https://www.nuigurumi-hospital.jp/>
- 『ネットで洗濯 .com』 <https://net929.com/>
- Bukowski公式サイト <https://bukowskibears.com>
- Steiff公式サイト <https://www.steiff.com/de-de>
- JellyCat公式サイト <https://eu.jellycat.com/>